

9月9日は『救急の日』

救急医療週間

9月7日(日)～13日(土)

救急車の出場件数は

前年より増加

長門市管内における平成25年中の救急出場件数は、1,842件、搬送人員は1,771人と前年に比べ、出場件数は27件、搬送人員は11人の増加となりました。これは管内人口の約21人に1人を搬送したことになります。

救急種別ごとにとみると、急病によるものが1,214件と全体の約66%を占め、次いで一般負傷が310件、転院搬送が14件、交通事故が128件となっています。

依然として多い高齢者搬送

高齢者（65歳以上）の搬送人員は1,263人で全搬送人員の約70%を占めています。これは高齢者の管内人口の約11人に1人を搬送したことになります。依然として高い搬送率となっています。

体調管理や適度な運動、かかりつけ医を定期的に受診するなど、日頃から健康に心がけましょう。

適切な救急車の利用を

救急車を交通機関代わりに使用したり、緊急性のない軽い症状やケガで呼んだりしていませんか。

市内には、3台の救急車が24時間体制で救急出場に対応しています。昨年の全搬送人員のうち入院の必要がない軽症者数は636人で、約36%を占めています。全国平均（50%）に比べると適切な救急利用がされているところですが、引き続き「救急車の適正利用」をお願いします。

また、救急車の後部ドアに適正利用の広報文とかわいらしい金子みすゞのイラストが入ったステッカー（最下段）を貼っています。救急車を適正に利用し、大切な命を守りましょう！

救急救命士の行うことのできる処置が拡大しました

平成26年4月より救急救命士の処置が拡大されました。これまでは、心肺機能停止状態の傷病者に対しての静脈路確保、薬剤



▲救急車内の訓練

投与、器具を用いた気道確保を行ってきましたが、追加講習を受講した救急救命士については、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保および輸液、血糖測定ならびに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与ができるようになりました。追加講習については、救命救急センターなどの医師のもとで受講します。実施ができる救急救命士については今年度に数名誕生する予定です。今後も救急救命士の処置に理解、協力をお願いします。

あなたの思いやりで大切な命を守りましょう!

救急車の適正利用にご協力を!!



▲救急車の後部ドアに貼られているステッカー

ドクターヘリの費用について

ドクターヘリは、費用が「無料」と思っている人が多いのではないのでしょうか。確かにドクターヘリも救急車と同様に「患者の搬送費用」は無料ですが、ドクターヘリ搭乗医師の往診料や現場で行う治療には費用が生じます。救急隊が行うドクターヘリ現場要請についても同様の費用がかかります。

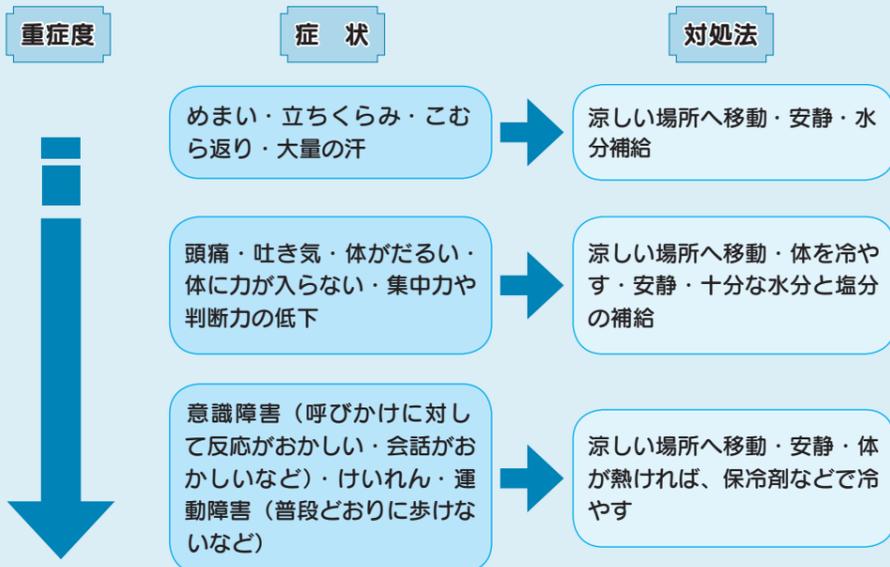
現場要請とは、心筋梗塞、脳卒中といった専門的な治療を早急に行わなければならない生命に危険が生じる時や、後遺症が残ることが予想される時、



▲命をつなぐドクターヘリ

もしかして、熱中症?

今年も残暑が厳しい予報です。皆さん、油断禁物ですよ!



こんな時は、ためらわずに救急車を呼びましょう

- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状の場合

熱中症予防のポイント

- 部屋の温度をこまめにチェック!
- 室温が28度を越えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう!
- のどが渴いたと感じたら必ず水分補給!
- のどが渴かなくてもこまめに水分補給!
- 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日焼け対策も!
- 無理をせず、適度に休憩を!
- 日ごろから栄養バランスの良い食事と体力づくりを!

そして、救急現場での医師の処置が必要な時に傷病者の生命を第一優先として行うことをいいます。費用などの話については、その場では時間的な余裕が無く説明できない

い場合がほとんどです。そこで「ドクターヘリ搬送費用は無料ですが、医師の往診料や治療に費用がかかります」ということについて、理解をお願いします。

ドクターヘリのスムーズな運航に協力をお願いします。

問い合わせ 消防本部警防課
Tel 22・5295